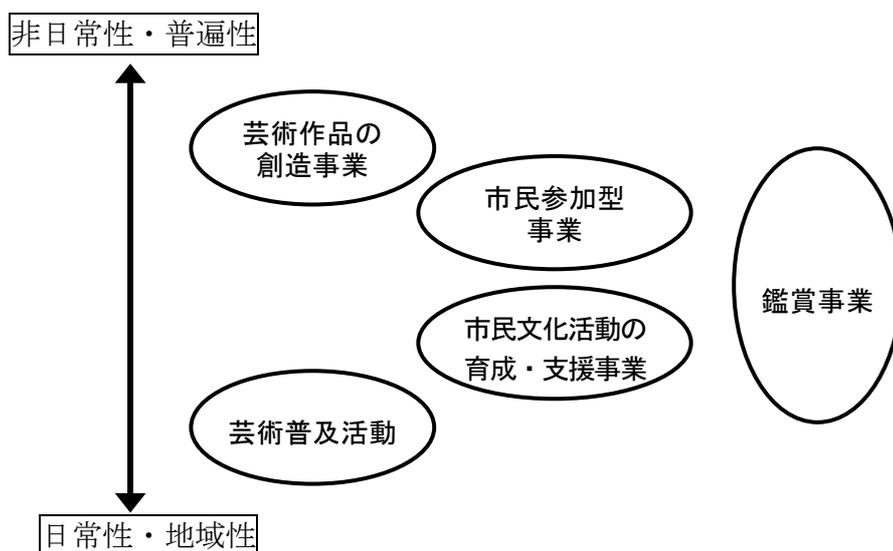


3. 地域文化施設を地域づくりの拠点へと構想する

地域の抱える問題点や現状、ならびに人材をはじめとする地域資源の情報を収集・分析し、地域の課題を広く把握する。そうしたプロセスをとおして、地域文化施設が、芸術を媒介にして地域にどのように貢献できるかを構想する必要がある。

(1) 地域文化施設の基本方針

地域文化施設の方向性を決めるベクトルは多様であるが、基本方針を明確にすることが肝要である。具体的な基本方針は、日常性と非日常性あるいは地域性と普遍性といった芸術活動の特性、さらには地域文化施設の置かれた環境条件を考慮して定められるべきであるが、次に列記した事業や活動の方向性は、地域文化施設の基本方針を検討する上で、ひとつの手がかりとなる。



これらのうち、何に重点を置くべきか、どれとどれを組み合わせるかなど、軸の設定方法や考え方は地域によってまちまちであり、必要なものは何かを考え、それに沿った構想、基本方針の決定が求められる。

(2) 地域文化施設からの総合政策の提案

地域文化施設は、自治体の芸術文化政策における単なる実行機関として位置づけられている場合がほとんどである。しかし、地域文化施設は住民ニーズを把握する最前線の基地であり、地域のアイデンティティ形成や市民意識の向上を図る装置として機能しうるものである。

よって、政策の実行のみならず、地域文化施設は、活動をとおして得られた住民ニーズに基づいて積極的な政策提案を行い、芸術を中核とした地域づくりの戦略拠点として機能すべきである。そうした政策を実現するために、自治体内の他部局（教育、福祉、まちづくり等）との協力体制や連携システムを構築するなど、総合的な行政サービスのあるべき姿をにらんだ取り組みが求められる。

[地域文化施設の基本方針を検討する際に手がかりとなる事業の内容]

地域の文化施設の基本方針を検討する際に手がかりとなる5つの事業の概要は以下のとおりである。また、多くの文化施設では、基本方針に基づいて、これらの事業を組み合わせ実施しており、次ページ以降に例示したように、個々の事業を相互に密接に連携させることで、事業全体に循環的な広がりを持たせることが重要である。

◎ 芸術作品の創造事業

新たな演劇や音楽、ダンスなどを創造する事業。国内外の脚本家や演出家、作曲家、振付家などと新たなオリジナル作品を作り上げるような事業。

◎ 鑑賞事業

内外の優れた作品の鑑賞機会を市民に幅広く提供する事業。ただし、いわゆる（単なる）買い取り型の鑑賞公演だけでなく、地域文化施設の目的やミッションと結びついた、その施設の主体性を発揮できるような鑑賞事業であることが望ましい。

◎ 市民参加型事業

市民オペラや市民ミュージカルなどの市民が舞台に立つ事業。専門家による指導、プロの演奏家やアーティストとの共演、地域の物語などに基づいた創作公演を行うケースも多い。

◎ 市民文化活動の育成・支援

地元市民の劇団や演奏団体、合唱団、子どもミュージカルなどの育成・支援を行う事業。

◎ 芸術普及活動

地域の学校や福祉施設などにアーティストを派遣して、ミニ・コンサートやワークショップなどを開催するアウトリーチ活動のほか、ワークショップや各種講座など、芸術を地域や市民に幅広く普及する活動。

〔地域文化施設の基本方針を具体化する事業の連携事例〕

多くの文化施設では、個々の事業を相互に密接に連携させることで、事業全体に循環的な広がりを持たせている。いくつかの施設について、以下の表にまとめてみた。

1. 盛岡劇場／盛岡市観光文化交流センター《プラザおでって》(2002年度の実業から)

◎盛岡劇場(管理・運営:(財)盛岡市文化振興事業団)の「演劇の広場づくり事業」

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
もりげき演劇賞 (2002年度～ 盛岡市民演劇 賞に改称)	●盛岡とその近郊で上演された地元の劇団等の公演に対して各賞を設け、優れた活動を奨励	◎		○	◎	
もりげき戯曲賞 (2001年度か ら休止)	●新しい作家の発掘と育成を目指し、戯曲を全国公募し選定 ●創作舞台公演として「もりげき戯曲賞」の受賞作品を2年間にわたって制作	◎	○	○	◎	
八時の芝居小屋	●1997年(平成9年)スタート。岩手県内で製作された質の高い演劇作品を定期的に上演することで(毎月複数回、夜8時から)、新たな観客層の掘り起こしと地域に残る良質な作品づくりを目指す ●スタッフには「もりげき演劇アカデミー」講座修了生を登用	◎	○	○	◎	○
もりげき祭演劇 フェスティバル	●市内劇団の発表の場としてフェスティバルへの参加を募り、活動を支援	○	○	○	◎	
演劇評論誌「感 劇地図」発行	●地域で上演された演劇公演に対する評論誌を発行 ●ホームページによるオンラインサイトも設けている ●1994年よりスタート、2003年3月現在86号を発行	○		○	○	○
もりげき演劇ア カデミー	●演劇基礎ワークショップ、専科(歌唱、ダンス他)等を学ぶ一般コースのほか、舞台づくりのスタッフ、ファンリテーターの育成を目指した講座も開講 ●一般市民に実践的な舞台づくりを学ぶ機会を提供 ●「60歳からの芝居づくり」、「狂言ワークショップ」、高校生を対象とした「舞台技術講習会」、「高校演劇部顧問のための演劇ワークショップ」も開催している	○		◎	○	◎
「もりげき演 劇ファーム」育 成事業	●「もりげき演劇アカデミー」卒業生を母体とした会員によるステージボランティア組織 ●演劇の継続学習、ボランティア活動の可能性を模索した土壌づくりが目的			◎	◎	○

◎プラザおでって(管理・運営:(社)盛岡観光協会)の演劇関連事業

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
おでってリージョ ナル劇場	●2000年(平成12年)スタート。地域素材にこだわった作品づくりを柱に、地域カンパニー化を目指す。地元の実力俳優をプロデュース ●スタッフはホール付の市民ボランティアが担当	◎	○	○	◎	
おでってリーデ ィングシアター	●県内放送局アナウンサーと盛岡の演劇人による朗読	◎	○			

2. 富士見市民文化会館《キラリ☆ふじみ》(2002年度の事業から)

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
キラリ☆ふじみ人形劇フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> 市内の人形劇グループ、囃子や太鼓のグループ、公募による市民が参加。地域の民話「たろべえと鶴」を上演 制作スタッフ(演出助手、美術、記録)にも公募市民が参加 	◎	○	◎		
富士見市吹奏楽フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> 市内中学校の吹奏楽部、消防音楽隊、富士見市吹奏楽団等による合同演奏会 	○	○	◎		
新春邦楽演奏家の集い	<ul style="list-style-type: none"> 市内の邦楽演奏家による演奏会 	○	○	◎		
「ザ・コンビニショー」	<ul style="list-style-type: none"> 開館記念事業の1つとして実施した市民芸能大会。出演者、スタッフともに市民公募。5ヶ月かけて市民の手で作上げたジャンル、参加形式(個人、団体)を問わないバラエティーショー 	○	○	◎		
キラリ☆バンドフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> 市内のバンドによるフェスティバル 	○	○	◎		
「ベートーヴェン交響曲第九(合唱付)演奏会」	<ul style="list-style-type: none"> 東京都交響楽団とプロのソリストとともに、公募による市民合唱団「富士見第九を歌う会」が舞台に立った 2003年1月の公演に向けて、8ヶ月、30回以上の稽古を積んでの舞台となった 	○	◎	◎	○	
演劇集団円こどもステージ	<ul style="list-style-type: none"> 招聘鑑賞事業。「こどもステージ」は演劇集団円による子どもと親がともに楽しめるステージ 公演に先だち、企画の岸田今日子のトークショーを開催 		◎			◎
加藤健一事務所公演	<ul style="list-style-type: none"> 招聘鑑賞事業 公演に先だち、劇団主宰者であり出演者の加藤健を招いてトークショーを開催 		◎			◎
青年団公演	<ul style="list-style-type: none"> 招聘鑑賞事業 青年団は、キラリ☆ふじみのプロデューサー・平田オリザの主宰劇団 		◎			
学校訪問コンサート	<ul style="list-style-type: none"> 東京都交響楽団の木管五重奏による訪問コンサートを市内4小学校で実施 		◎			◎
演劇体験ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 市民を対象に、STEP1の入門編、STEP2、STEP3の各コースを実施。講師は平田オリザ 参加者による発表会を開催 演劇のほか、全7回のダンスワークショップも開催 	○		◎	○	◎
特別ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 照明ワークショップ(全3回) 舞台美術ワークショップ(1日) 舞台撮影体験(講義:全3回、撮影) 	○		◎	○	◎
GO!GO!探検隊	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の市民団体の協力により、さまざまな楽器を体験したり、演奏を聴いたり、また、楽器を作ったりするプログラム メインホールでは富士見市吹奏楽団の演奏会を実施 		○	◎		◎

3. 神奈川芸術文化財団(2002年度の事業から)

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
かながわ戯曲賞 &ドラマシリーズ 【ST スポット】	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国から公募した戯曲を公開審査(最優秀賞・佳作)する。2002年度の応募作品数は80点 ● 選ばれた作品を演出家と俳優の手でドラマリーディングとして上演。スタッフとして公募の市民ボランティアを採用 	◎		○	◎	
		◎	○	○	○	
フィリップ・ドゥクフレ 研究ワークショップ 習作公開 【赤レンガ倉庫】	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテンポラリー・アーツ・シリーズ ● 振付・演出家のフィリップ・ドゥクフレによるコンテンポラリー・ダンスのワークショップの習作(日本のダンサー、パフォーマーとのコラボレーション)を公開 	◎	◎			○
藤原真理 子どものためのコンサート 【県立音楽堂】	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども、おとな両方が楽しめるコンサート「夏の音物語」 ● 前半は、チェリスト・藤原真理がチェロの魅力について解説しながら演奏を行う。後半は、ピアノと語りとのコラボレーションで「セロ弾きのゴーシュ」を演奏する 		◎			◎
イーナ・メジュ ーエワ リサイタル 【県立音楽堂】	<ul style="list-style-type: none"> ● ロシア出身のピアニストの日本でのデビュー5周年記念リサイタル ● リサイタルの前に、音楽堂近くの小学校の教師や父兄と協力関係を作り、アウトリーチと鑑賞コンサートを組み合わせた「町のコンサート(出張特別授業)」を開催 		◎			◎
エストニア・フィル ハーモニック 室内合唱団 【県立音楽堂】	<ul style="list-style-type: none"> ● 第9回神奈川国際芸術フェスティバル ● エストニアのア・カペラ合唱団によるコンサート。バルトの作曲家およびロシアン・バロックのア・カペラサウンドを聴かせる 		◎			
音楽堂で聴く ＜聲明＞ 【県立音楽堂】	<ul style="list-style-type: none"> ● 第9回神奈川国際芸術フェスティバル ● 仏教の儀式の中で伝えられてきた声楽「聲明(しょうみょう)」は、宗教音楽として国内外で評価を得ている 		◎			
井上道義の上り 坂コンサート 【県立音楽堂】	<ul style="list-style-type: none"> ● 第9回神奈川国際芸術フェスティバル ● 日本最古のコンサートホールである県立音楽堂で、今上り坂にある若い音楽家がソリストとして正統派古典プログラムに取り組むシリーズ。指揮者・井上道義が命名、指揮 		◎		◎	
オペラ 支倉常 長「遠い帆」 【県民ホール・大】	<ul style="list-style-type: none"> ● 第9回神奈川国際芸術フェスティバル ● 三善晃作曲、若杉弘指揮の日本オペラ 		◎			
パイプオルガン 無料コンサート 【県民ホール・小】	<ul style="list-style-type: none"> ● 新進のオルガニストを毎年12名選定、毎月1回金曜日の昼休みに開催。入場料は無料とし、近隣の職場のオルガンに興味のある老若男女に開放 		◎		○	○
パイプオルガン・レ クチャー・コンサートの シリーズ【県民ホール・小】	<ul style="list-style-type: none"> ● パイプオルガンの名曲を、映像や資料を使ったわかりやすい解説とともに聴いてもらうシリーズ(全3回) 		◎			◎
舞台芸術講座 【県民ホール・小】	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎回、オペラ、ダンスなどのテーマに基づき、講師によるレクチャーとアーティストによる実演を行う講座 		◎	○	○	◎
「悲劇ウラジミール・ マヤコフスキー」& 「見世物小屋」 【赤レンガ倉庫】	<ul style="list-style-type: none"> ● 21世紀実験劇場シリーズ 演劇の十月 ● 詩劇「悲劇ウラジミール・マヤコフスキー」(V・マヤコフスキー作)と「見世物小屋」(A・ブローク作)を2本立てで上演 ● 2003年3月には、シリーズ「ミステリヤ・ブック」を県民ホールギャラリーで上演 		◎			
山村でのバレエ レッスン&公演	<ul style="list-style-type: none"> ● 山梨県に隣接する山間地津久井郡・藤野町に公開レッスンと公演(スターダンサーズバレエ団による)を出前出張 ● 市町村とのタイアップ事業 		○			◎

4. 小出郷文化会館(2001年度の事業から)

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
南北魚沼コーラス・フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> 地域で活躍するコーラス団体の発表と交流の場として1998年より実施。六日町文化会館と共催、1年おきに開催 オペラ歌手による客演ステージがある 	◎	○	◎	○	
吹奏楽フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> アマチュア吹奏楽部の祭典として1997年スタート。小出郷管楽アンサンブル、小出郷ジュニア・ブラス・オーケストラが発表の場として参加するほか、自由参加のフェスティバルバンドには地域の中学生が多数参加 ジュニア・ブラス・オーケストラの指導者と毎年共演することで、年々演奏力があがってきている 	◎	○	◎	○	○
ジュニア・ブラス・オーケストラ	<ul style="list-style-type: none"> 地域小学校の金管バンド廃部をきっかけに発足 2001年度の登録メンバーは、10～18歳の45名 プロのクラリネット奏者、トランペット奏者の指導をあおぐ 	○		◎	◎	○
小出郷管楽アンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> 小出郷文化会館レジデント団体として、固定したメンバーでアンサンブルを深めることを目的に1997年結成 小出郷内外の管楽器愛好者からメンバーを選抜(28名) プロの指揮者の指導を仰ぎながら大ホールで練習を行う 	○		◎	◎	○
小出郷リコーダーオーケストラ	<ul style="list-style-type: none"> 世代を超えた音楽を創る場として1996年にスタート。地域の小学校3年生～熟年約50名が、初級・中級・上級の3つのクラスに参加する 年1回定期演奏会を実施、小出郷リコーダーオーケストラの演奏とともに、講師のリコーダー奏者・吉沢実氏とその仲間たちによる演奏がある 	◎	○	○	◎	○
劇団育成 魚沼一座	<ul style="list-style-type: none"> 芝居好きの人たちが集まり、自分たちで脚本・演出を行い、年1回の公演を行う。1996年結成 	◎	○	◎	○	○
魚沼太鼓(和太鼓セミナー)	<ul style="list-style-type: none"> 「魚沼太鼓」とは、既存の伝統的な和楽器演奏団体(4団体)により1995年に結成されたグループ。演奏技術の向上を目指して、鼓童から指導者を招いている 演奏会や芸能祭で演奏を行うほか、魚沼太鼓のメンバーが自主的に小学校への指導にも赴く 	○	○	◎	◎	○
21世紀の童歌創造プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 羽田健太郎氏をパーソナリティーにした演奏会 子どもたちの感性を磨き、音楽の楽しさをプレゼントすることを目的に、1997年より開催。地域の小学生5年生を招待 2001年度は新潟県内の小・中学生から公募した詩に羽田氏が曲をつけて、管弦四重奏、ソプラノ歌手が演奏した 		◎			◎
アウトリーチ&ガラコンサート	<ul style="list-style-type: none"> 学校や温泉のロビーなどホール以外のさまざまな場所に出向いての出張コンサートとともに、本物のホールで演奏を聴いてもらうためのガラ・コンサートを大ホールで実施 小出郷広域事務組合が7つの町村からなることから、地域相互のつながりを意識して始めたもの。2001年度は、12回の学校訪問コンサート、6回のロビー・コンサートを実施 		◎			◎
心のふるさとふれあいコンサート	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設、学校等にソプラノ歌手を派遣、歌い継がれてきた日本の名曲とともに歌う出張コンサート。県内ホールの協力で、県内3ヶ所、10公演のツアーとして実施 		◎			◎
コーラス・セミナー	<ul style="list-style-type: none"> 昭和音楽大学から指導者を招いての提携プログラムとして1996年スタート。個人レッスン、指導者コース、大好きコースの3つのクラスに分かれて3日間のレッスンを行う 			◎	◎	○
歌声サロン	<ul style="list-style-type: none"> 合唱団に入るより気楽に歌える場を、という声が市民の企画公募で実現。実行委員会がホール内かまくらサロンで開催 			◎		○

参考 | 小出郷文化会館における「芸術循環・進化型」プログラム
 (吹奏楽事業を例にして)

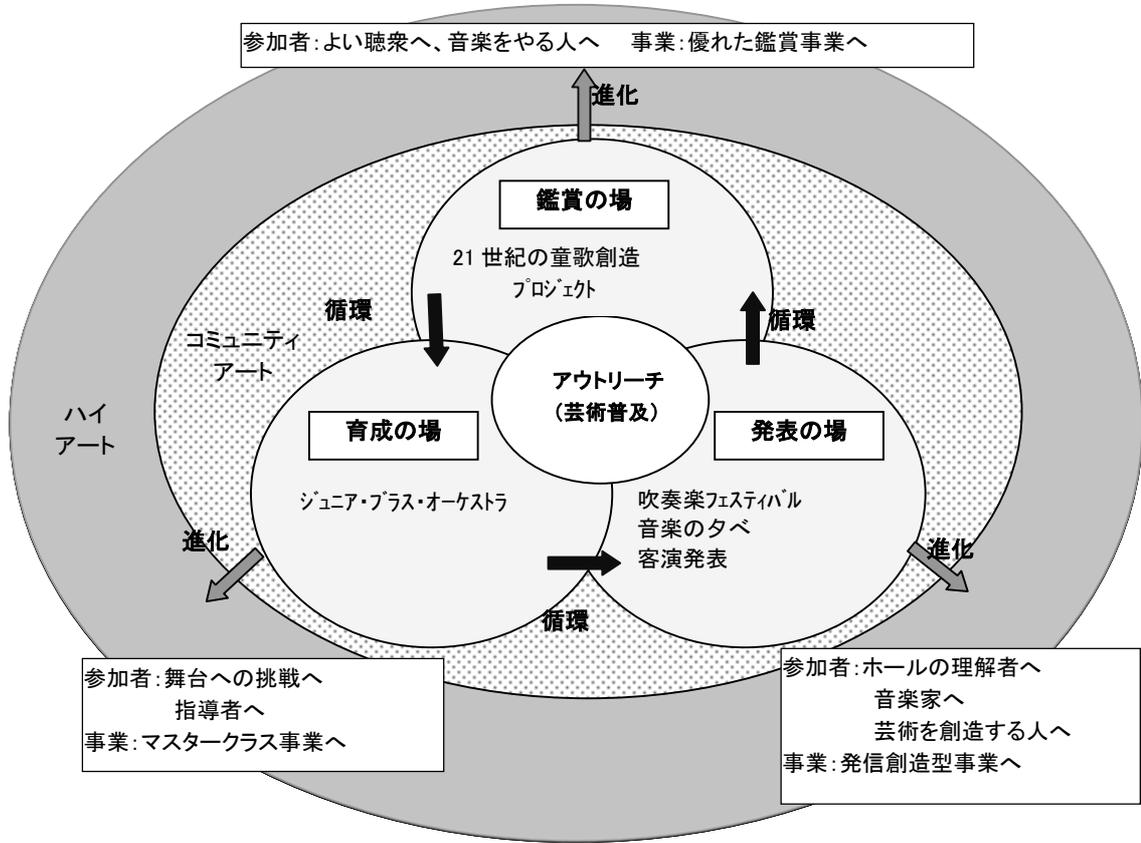


図: 小出郷文化会館 櫻井俊幸館長作成

5. 伊丹市立演劇ホール《AI・HALL》(2002年度の事業から)

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
アイホール演劇ファクトリー 第6期	<ul style="list-style-type: none"> 演技技術の習得だけでなく、スタッフワークも含めた演劇全般を体験することで、演劇の面白さ・奥深さを実感してもらう総合講座。受講者は、経験、年齢までさまざま 前期は演技の基礎と舞台美術(週1回)、後期は修了公演に向けた製作現場(役者とスタッフ双方)を体験する(週2回) 	○		○	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> 修了公演として、受講生が2つのチームに分かれ、交互に役者とスタッフを経験し、講師陣とともに一つの作品を創り上げる。3日間4公演を行う 	◎	○	○	◎	
伊丹想流私塾 第7期	<ul style="list-style-type: none"> 劇作家・北村想塾長の劇作家養成のための戯曲塾 10名程度に限定された受講生が、月2回、約10ヶ月にわたり、塾長の他2名の講師とともに、短編戯曲の執筆を通じた実践的な講義をうける 	○		○	◎	◎
AI・HALL SHOW CASE	<ul style="list-style-type: none"> 「伊丹想流私塾」・「演劇ファクトリー」卒業生有志がチームを組んで創作から上演までを行う公演。2002年度は3チームがエントリー 終演後、両講座の講師経験者を迎えてのポストトークで、今後の表現活動の方向性等を話し合う 	◎	○	○	◎	
アイホール中学高校演劇フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> 発表機会の少ない中学高校演劇部に、単なる発表ではなく2日間の「公演」として行うことで、創造の実感を掴んでもらうことを目的とする 市内2つの中学、4つの高校の演劇部が参加 	◎	○	○	◎	
夏休み演劇ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【高校生のためのワークショップ】 演劇フェスティバル関連企画 生徒自身がオリジナルの台本を創作し、演じることで「創作の面白さ」を実感してもらうことを目的とする 最終的に、音響・照明をいれた簡単な発表まで行い、アイホールという劇場空間の中でできることをしっかり体験してもらう 市内4つの高校の演劇部から32名が参加 	○		○	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> 【中学生のためのワークショップ】 演劇フェスティバル関連企画 「演劇の面白さ」を認識してもらうことを目的とする。最終的に高校生ワークショップと同じように発表を行う 市内4つの中学の演劇部から23名が参加 	○		○	◎	◎
公演 『想稿 銀河鉄道の夜 ver.3.2』	<ul style="list-style-type: none"> 「伊丹想流私塾」の塾長である北村想率いるプロジェクト・ナビの公演 		◎			
ダンスワークショップ 「プレイ!!」	<ul style="list-style-type: none"> アイホール前広場で催される親子参加型イベント 日ごろ舞台芸術や美術などに接点の薄い子どもとその親にアイホールに親しんでもらおうと、造形ワークショップ、不思議な音とダンスの即興セッションを実施 	○	○	◎		◎
白井剛ダンスワークショップ & パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 公演を前提とした93.5時間に及ぶワークショップ。参加者は公募、オーディションで選抜。講師は振付家・白井剛 	○		○	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの最後に、2日間のパフォーマンスを行う 	◎	○	○	◎	
ロリーナ・ニコラスによる振付家のための構成力養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 若手振付家を対象とした、国際的な振付家のロリーナ・ニコラスを講師に迎えての5日間のワークショップ 構成力を養うことを目的に、作品の上演・ディスカッション→2クラスによるレクチャー・作品の手直し→作品の再上演・ディスカッション という内容で、振付とダンスを徹底的に考察 	◎			◎	○
Take a chance project	<ul style="list-style-type: none"> 関西を拠点とするパフォーミングアーティストにアイホールの空間を活かした新作を委嘱、共同制作する事業 1年間で1作品ベースで3年間継続、3作品程度を制作する 2002年度は、BABY-Q、dotsの2つのカンパニーが新作を上演 	◎	◎		○	

6. 佐敷町文化センター《シュガーホール》(2002年度の事業から)

事業名	事業の内容	創造	鑑賞	市民参加	育成支援	芸術普及
さしき創造の小屋	<ul style="list-style-type: none"> 民族音楽即興セッション「アジアの地平を超えて」演奏会 民族楽器奏者6名による実験的な即興アンサンブル創造への挑戦。ライブのCD化による全国発信 	◎	◎			
町民劇団「賞味期限」公演	<ul style="list-style-type: none"> 10～40代町民による新作劇の制作上演。歴史に埋もれた市町民の半世紀を題材化。プロの台本・演出家との協働 新作上演に向けた町内人材発掘過程での情報提供者との密な交流が創造型アウトリーチ。長い稽古過程はワークショップ 	◎	◎	○	○	○
新人オーディション・演奏会	<ul style="list-style-type: none"> 公開国際オーディション、国際レベルの招聘審査員による講評 上記入賞者の演奏会、NHK・FMで全九州放送 	◎	◎			
アフリカ・スーダン国立伝統音楽合奏団	<ul style="list-style-type: none"> ホールコンサート 小学校5年生を対象にしたワークショップ型演奏会、事前にスーダン文化の学習(この新聞報道がコンサート誘客に貢献) 		◎			◎
五嶋みどりヴァイオリンリサイタル	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア・オーケストラ、ジュニア・コーラスがエギジビション参加(五嶋みどりの人・技・芸術性に触れる) 町内外の市民ボランティアによって企画・運営・実施される 		◎	○	○	○
佐藤しのぶ	<ul style="list-style-type: none"> ソプラノリサイタル、純粹鑑賞型(町民コーラスの観客多数) 		◎		○	
バリ・ガムラン公演	<ul style="list-style-type: none"> 解説入りのガムラン演奏と、バリ影絵芝居の公演。演奏者の一部にワークショップを経た県民参加 屋外公演で沖縄生活文化の中の芸能との共通性を体験 		◎	○		○
町民コーラス	<ul style="list-style-type: none"> 佐敷小学校創立記念祝賀会演奏(地域行事への音楽参加) 生涯学習フェスタ参加(児童・生徒・学校教師および父兄を対象にした教育イベントの合唱音楽で市民参加) 全沖縄おかあさんコーラス大会参加(オリジナル曲の演奏) 	○		◎	◎	
ジュニア・コーラス	<ul style="list-style-type: none"> 「少年の翼」歓迎演奏。他県の少年少女との交流。日常のレッスン成果を試し、合唱音楽を通して心の交流を行う 沖永良部文化ホールより招聘を受け、同島の音楽祭にゲスト出演。合唱・器楽演奏・舞踊等の構成舞台を創り、上演 知名中学との共演も行う。事前に芸術監督が沖永良部で出前ワークショップを実施。ピクチャーからCD3枚を全国リリース 老人ホーム交流演奏。子どものためのパフォーマンス広場の幼稚園から中学生までとともにアウトリーチ 地域社会を隔離しがちな専用施設を訪ね、歌声、ダンスを通して元気づける。同時に子どもたちも音楽パフォーマンスの意味や高齢者社会について学ぶ 	○	○	○	○	○
町民音楽祭	<ul style="list-style-type: none"> ポップ系音楽の若者(町民)、プロアーティスト(作・編曲、演奏)、ジュニア・オーケストラの共同ステージ ジュニアオケのレパートリーやアマチュアのオリジナル・ソングにプロがジョイントした野外市民コンサート 	○	◎	◎		
成人式	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア・オーケストラ、ジュニア・コーラス、佐敷中吹奏楽部、町民コーラスの他、小学生から大人までの町民による音楽、コント、芝居、映像。構成は参加者と新成人によってシナリオ化。 	○		◎		

なお、事例として掲載した各施設（団体）の概要は次のとおりである。

◎盛岡劇場／盛岡市観光文化交流センター[プラザおでって]

- 盛岡劇場は、大正2年に建設された旧盛岡劇場（その後谷村文化センターとして1968年まで劇場として機能）の跡地に、市民の要望を受けて公民館とともに建設されたもの。その経緯から、地域演劇を育てるための拠点施設として事業を展開。立地：岩手県盛岡市、開館：1990年（平成2年）、ホール規模：メインホール（511席）、管理運営：(財)盛岡市文化振興事業団
- プラザおでってでは、ジャンルにこだわらず芸術文化を振興して町に賑わいを生み出すことを目的とする。立地：岩手県盛岡市、開館：2000年（平成12年）、ホール規模：ホール（200席程度）・ギャラリー等、管理運営：(社)盛岡観光協会

◎富士見市民文化会館[キラリ☆ふじみ]

- 「市民の芸術劇場」として、高い水準の個性豊かな芸術文化を創造し、提供する。
- 立地：埼玉県富士見市、開館：2000年（平成12年）、ホール規模：メインホール（802席）・マルチホール（可動式 255席）・その他スタジオ等、管理運営：(財)富士見市施設管理公社

◎財団法人神奈川芸術文化財団

- 身近で、質の高い芸術鑑賞の機会を提供するとともに、神奈川から新たな文化資産を創造していきたいとの目標を掲げて財団が設立された。音楽、演劇、舞踊、現代美術を中心とした芸術文化の創造と普及を中心とした事業を展開
- 設立：1993年（平成5年）、管理運営施設：県民ホール（大ホール（2488席）・小ホール（488席））、ギャラリー、県立音楽堂（1106席）、かながわアートホール（最大300席）

◎小出郷文化会館

- 小出郷文化会館は、地域住民、地域の文化団体の代表者、そして行政担当者からなる「文化を育む会」で話し合いを重ねながら、コンセプトづくりやホールの運営計画を進めた「住民参加」型のホール。基本コンセプトは、「いきいきとした子どもたちの感性を磨く」、「地域における芸術文化の核施設として機能する」、「さまざまな地域の交流を行う」、「世代を超えた環境づくり」。
- 立地：新潟県北魚沼郡、開館：1996年（平成8年）、ホール規模：大ホール（1136席）・小ホール（406席）、管理運営：小出郷広域事務組合

◎伊丹市立演劇ホール [AI・HALL]

- 伊丹市では、市民が文化的な生活を最大限に享受できるようにするとの理念の下に1987年、芸術文化振興基金を設置するとともに劇場都市構想を打ち出した。個性化事業を展開するため、翌年（1988年）演劇ホールを開館、民間プロデューサー制度を導入し、小劇場の自主事業化を柱に事業を展開している。
- 立地：兵庫県伊丹市、開館：1988年（昭和63年）、ホール規模：イベントホール（可動床・通常座席で300席）・カルチャールーム等、管理運営：(財)伊丹市文化振興財団

◎佐敷町文化センター[シュガーホール]

- ホールを、音楽と舞台芸術を柱とした芸術文化、地域文化の創造活動の広場と位置づけた事業を展開
- 立地：沖縄県佐敷町、開館：1996年（平成8年）、ホール規模：ホール（525席）、管理運営：佐敷町